

水害の際の蓄電システムの取扱いに関する注意点



近づくな!

触るな!

有害ガスの発生
の危険が
あります

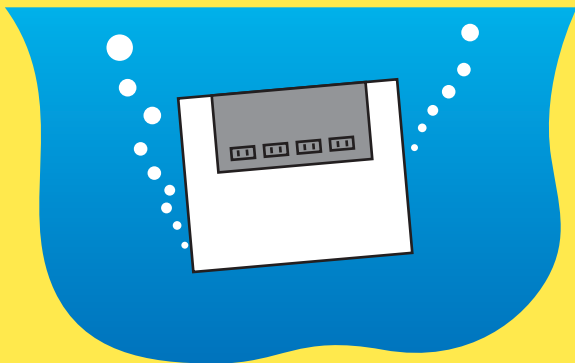
発熱・発煙・
発火の危険が
あります

触ると、
感電の危険が
あります

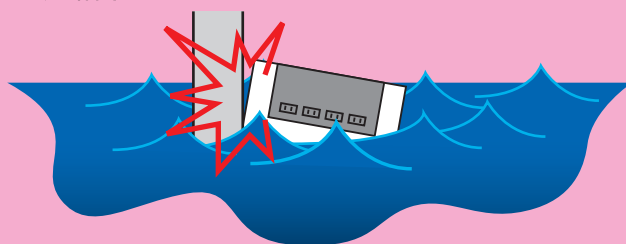
固定金具の
破損により
転倒の危険が
あります

電池から
漏れた電解液には
触らないで
下さい

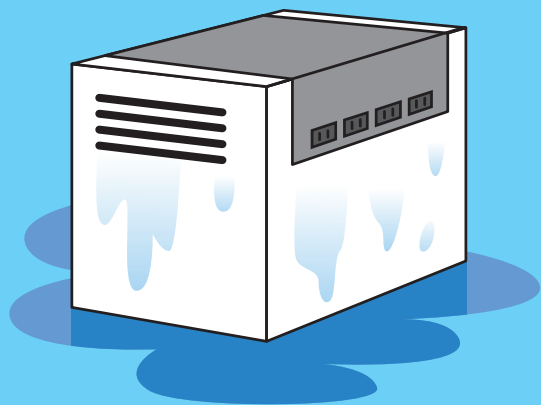
1
水害の際、蓄電システムの全部が水没、または一部が浸水しますと、感電、有害ガスの発生、発熱・発煙・発火などの危険があります。決してむやみに近づかず、触らないで下さい。速やかに販売店、施工店、またはメーカーにご連絡下さい。



2
特に蓄電システムの機器自身が流されたり、漂流物等と接触したりして衝撃を受けている場合、機器本体、または電線が損傷している可能性があるため、感電しやすくなります。さらに、衝撃により、固定金具が破損していると機器が転倒する危険があります。また、内部の電池が損傷すると発熱・発煙・発火しやすくなり電解液が漏れる場合もありますので、機器本体および漏れた電解液には、決して触らないで下さい。速やかに販売店、施工店、またはメーカーにご連絡下さい。



3
水没、または浸水した後、水が引いた状態でも危険な場合がありますので、再使用前に必ず販売店、施工店、またはメーカーにご連絡下さい。



4
蓄電システムは破壊・粉碎などを行うと、感電、有害ガスの発生、発熱・発煙・発火などの危険がありますので、水没、または浸水した蓄電システムを処分する時は、専門の業者、またはメーカーにお問い合わせ下さい。

